

ぐんま派遣村へ100人を超える相談者！

利根沼田からもボランティア参加

3月26日に前橋公園で、「ぐんま派遣村」が開設されまして。宣伝活動などが事前に行なわれており、当日は、地元前橋をはじめ、高崎、伊勢崎、桐生、沼田など県内各地から100人を超える相談者などが参加しました。ボランティアは325人が参加しました。

派遣村は、おにぎりや豚汁などの炊き出しをはじめ、就職・住居などの相談や健康診査、理髪などが行なわれ、生活保護は25件以上申請しました。生活保護は住所のないホームレスの人については、派遣村(前橋公園)の住所で申請できることになりました。



派遣村(前橋公園)の開村式



相談者の受付



農民連の炊き出しテント

ボランティアで参加した井之川博幸市議(左)と持田宗武さん

日本共産党沼田北部 後援会花見会のご案内

とき 4月18日(土) 11:00 ~ * 飲む方は車ご遠慮下さい

ところ 十王公園 (雨天室内で・・連絡します)

会費 1,000円 *お弁当が出ます。参加できる方は

16日(木)までに 井之川 24-5022

稲垣 22-3938 伊佐治 24-5027

永井 23-1964のいずれかに伝えて下さい。

* たくさんのご参加をお待ちしています。



なんでも相談会のお知らせ

2009年4月12日 470

いのさんニュース

発行所沼田市下久屋町983 23-1519

井之川博幸議員活動地域版部内資料

* 4月16日(木) 午後6:00より

* 場所 井之川博幸市議宅

連絡先 24-5022

主催：日本共産党沼田北部支部

投稿 考えてみよう 5・3憲法集会を前に！

人にはいろいろな人生があります。学校にも行けるし、大学にも通える。いろいろな職業に就いて家庭を築き、それぞれの日常生活を送ることができる。

ところが、それが戦争になると、すべてが国家の戦争遂行という流れに呑み込まれていくわけです。世界戦争になった時には、もはや誰も、すべてを呑み込む戦争から逃れなくなります。そのうえ、核兵器を使う全面戦争になれば、人間・世界そのものの存続さえ危うくなります。

夏目漱石は「草枕」の中で、主人公が日露戦争に出征する兵士を見送りに行き「自分たちは、その汽車に乗ると言うけれども、結局は一つの箱に積み込まれて運搬されているんだ。」という言葉で小説のなかで述べているが、ひとたび戦争になると巨大な国家の力に呑み込まれてしまいます。「俺は戦争に賛成していないんだ」「俺には関係ない」と言っても通用しないのです。

日本国憲法は主権者である「国民」が「国家」に対して戦争をさせない縛りをかけている。つまり、国家がやってはいけない、国家が暴走してはいけないことを定めています。それまで国家だけに認められていた人殺し、合法化され主権の発動としての戦争を日本国憲法は放棄しているのです。世界のなかで、最も進んだ憲法を持っているのです。世界のなかで、個人である国民が国家に最も強い縛りをかけた憲法を日本は持っているのです。

現代の戦争は国家間の戦争ではなく、アメリカの価値観に合わない非政府組織との戦争だと言われています。イラク戦争も国家間の交渉が破綻して起こったのではなく、サダム・フセインが名指して悪と断罪され、断罪されたものへの刑の執行だとも言われています。このような時だからこそ世界の紛争を日本は平和的に解決する努力をしなければなりません。憲法九条を世界に輝かせる時です。紛争の基となっている貧困、抑圧、差別をなくす努力をすべきです。

5・3の憲法集会はそれぞれの平和の思いを胸に秘め「憲法を活かす時代」という講演をきいて、これからの運動の力にしようではありませんか。

2009年3月26日 T・I

